

ぶどう通信

第 23 号

平成 14 年 10 月 7 日

訪問診療を始めて約五年が経ちました。最初から自転車診療だったのですが（自転車操業と言われることも！）、絶対的に「得したな」と思うこともありませう。それは、僕のようなものでも季節を感じる身体になったことです。

大学病院に勤務していたときは、朝九時に病院に入り、夜九時頃に家に戻るまでエアコンの聞いた室内に閉じこもりっぱなしでした。診療に來られる患者さんたちの汗を見て「今日は暑いですね」とか、分厚いコートを見て「寒くなりましたね」と声はかけていましたが、実際肌で感じたことはありませんでした。

先日、訪問の途中で金木犀の甘い香りに秋を思った時、「俺も変わった

なあ」と思いました。将来、また診療室にこもる日が来るかもしれないませんが（ないかもしれない）、すごく貴重な体験をしていると感じます。

それとともに、訪問する先々で皆さんから聞く季節の感じ方に最近すごさを感じています。以前は、診療前の軽い会話と流していたこともありますが、最近は感動することもあります。日本人は季節を感じる人種なんだということ再確認しています。

入れ歯に慣れる 2

前回、入れ歯を夜入れて寝るのか、外して寝るのか、というテーマで掲載後、いろいろな所から反響がありました。過去最高の反響でした（ちなみに『ぶどう通信』を読んでいただいでいるなんて感激です）。そこで、皆さんの反響を少しご紹介したいと思います。



基本的に多かったのは「夜は外しています」というご意見。全体の八割ほどでした。それに対し、「ほとんど二十四時間入れている」という方の九割は「自分の歯が残っている型でした。」

これらをまとめると、現状は、「ほとんどの方は夜入れ歯を外すが、自分の歯が数本残っている方の方には二十四時間入れている方がいる」ということになります。

ただし、問題は、「本当はどうすれば良いのか」ということです。これからもいろんな調査をして、どうすれば良いのかを考えていきますね。